

2014 年（平成 26 年）の日本の天候

2014 年（平成 26 年）の日本の天候の特徴：

年平均気温は、全国で平年並

北日本では、冬から春の前半にかけて気温の低い期間が多く、東日本及び西日本でも、夏の後半から9月前半にかけての低温が明瞭だったが、その他は気温の高い期間も多かった。また、沖縄・奄美でも、夏から秋の前半は気温の高い状態が続いたが、その他は気温の低い期間が多かった。このため、年平均気温は全国で平年並だった。

東日本日本海側と北日本は多雨・多照

北日本及び東日本では、春から夏の前半及び秋に高気圧に覆われて晴れの日が多かったことから年間日照時間は多く、特に北日本太平洋側と東日本ではかなり多かった。一方、低気圧や台風等の影響でたびたびまとまった降水となったため、東日本日本海側と北日本の年降水量は多かった。

西日本は、2003年以来11年ぶりの冷夏

西日本の夏の平均気温は、太平洋高気圧の西日本への張り出しが弱かった等の影響で低く、2003年以来11年ぶりに冷夏となり、さらに日照時間もかなり少なかった。特に、西日本太平洋側で1946年の統計開始以来、8月における月間日照時間の少ない記録と月降水量の多い記録を更新した。一方、北・東日本では、日本の東海上の高気圧が強く、高気圧周辺で南から暖かい空気が流れ込んだため、また、沖縄・奄美でも、暖かい空気に覆われることが多かったため、夏の平均気温は高かった。

関東甲信地方で記録的な大雪

2月上旬と中旬に、低気圧が発達しながら日本の南岸を通過し、太平洋側では広い範囲で大雪となった。特に、14日から16日にかけては、関東甲信地方を中心に過去の最深積雪の記録を大幅に上回る記録的な大雪となった。

「平成 26 年 8 月豪雨」が発生

7月30日から8月26日にかけては、台風第12号が接近し、台風第11号が上陸するとともに、前線が日本付近に停滞し、日本付近への暖かく非常に湿った空気が継続して流れ込んだため、四国地方をはじめとして各地で大雨となり、広島県広島市では集中豪雨による大規模な土砂災害が発生した（「平成 26 年 8 月豪雨」と命名）。

1 概況

冬から春の前半にかけては、全国的に、気温の低い時期と高い時期が交互に現れた。強い寒気の南下は一時的で日本海側の冬の降雪量は少なかった一方、関東甲信地方では記録的な大雪に2度見舞われた。春の後半から夏の前半にかけては、北日本と東日本では、移動性高気圧に覆われて気温の高い晴れの日が平年と比べて多かった。西日本では、5月に晴れの日が多く、6月に曇りや雨の日が多くなったが、気温はほぼ平年並だった。一方で、沖縄・奄美では、梅雨前線の影響を受けて、曇りや雨の日が多かった。夏の後半から9月半ばにかけては、北日本から西日本にかけては、太平洋高気圧の本州付近への張り出しが弱かったため、気温が低く、東日本と西日本を中心に曇りや雨の日が多かった。また、2つの台風や前線等の影響で長期間にわたり広い範囲で大雨に見舞われた（「平成26年8月豪雨」）。9月半ば以降は、周期的に気温の高い時期と低い時期が現れ、北日本と東日本を中心に移動性高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、10月は2つの台風が上陸し、ほぼ全国的に降水量が多かった。沖縄・奄美では、冬から春の前半まで気温の低い時期が多かったが、夏から秋の前半にかけて気温の高い日が多く、特に9月は記録的に気温が高かったほか、先島諸島では夏以降の少雨が11月まで続いた。その後12月に入ると強い寒気が南下することが多く全国的に気温が低くなった。これらの結果、年平均気温は、全国で平年並だった。また、高気圧に覆われて晴れの日が多かったため、年間日照時間は北日本太平洋側と東日本でかなり多く、北日本日本海側で多かったが、低気圧や台風等によるまとまった降水があったため、これらの地域では年降水量も平年を上回った。一方、6月以降、8月を中心に曇りや雨の日が多かった西日本では、年間日照時間が少なく、年降水量は平年を上回った。また、奄美地方から沖縄本島にかけての年降水量は多かったが、先島諸島では顕著な少雨となったため、沖縄・奄美では、年降水量は少なかった。

冬は、東日本と沖縄・奄美では、一時期を除いて寒気に覆われることが多く、冬の平均気温は低くなり、東日本では3年連続の寒冬となった。一方、前年12月の気温が高かった北日本と1月下旬に気温がかなり高くなった西日本では平年並だった。一方で、上空の強い寒気の南下は一時的だったことから、日本海側の降雪量は北日本の山沿い等を除いて平年を下回った所が多く、特に北陸地方の平地では平年を大きく下回った。また、2月には低気圧が発達しながら日本の南岸を2度通過し、太平洋側では広い範囲で大雪となり、特に14日から16日にかけては、関東甲信地方を中心に過去の最深積雪の記録を大幅に上回る記録的な大雪となった。

春は、北日本から西日本にかけては、期間を通して高気圧に覆われる日が多かった。春の日照時間は沖縄・奄美を除いてかなり多く、東日本日本海側、東日本太平洋側、西日本日本海側では、統計を開始した1946年以降最も多かった。また、春の降水量は、北日本日本海側と西日本では少なかったが、低気圧の通過時にまとまった降水があったことから、北日本太平洋側と東日本は平年並だった。東・西日本では、寒気が南下し低温となる時期もあったが、3月下旬と5月下旬に南から暖かい空気が流れ込み、気温が平年を大幅に上回ったことなどから、春の平均気温は高かった。沖縄・奄美では、冷涼な高気圧や寒気の影響を受けて気温の低い日が多く、春の平均気温は低かった。

夏は、梅雨前線の影響は沖縄・奄美を除いて弱かったが、主に7月30日からの2つの台風や前線等の影響で広い範囲で大雨に見舞われたことから（「平成26年8月豪雨」）、北日本、西日本太平洋側では夏の降水量がかなり多く、東・西日本日本海側でも多かった。また、西日本では、気圧の谷の影響と太平洋高気圧の西日本付近への張り出しが弱かった影響で、夏の日照時間がかなり少なく、夏の平均気温は、2003年以来11年ぶりに低く、冷夏となった。一方、日

本の東海上で高気圧が強かった影響で、高気圧周辺で南から暖かい空気が流れ込んだ北・東日本及び暖かい空気に覆われることが多かった沖縄・奄美の夏の平均気温は高く、北・東日本では5年連続の暑夏となった。

秋は、北日本から東日本にかけて、大陸からの移動性高気圧に覆われて、晴れる日が多かった。このため、東日本日本海側と北日本の秋の日照時間はかなり多く、東日本日本海側と東北地方では1946年の統計開始以来、秋としては最も多い記録を更新した。北日本と東日本では、2010年から4年連続で秋の平均気温が高い年が続いていたが、9月を中心に大陸からの冷たい空気を伴った高気圧に覆われる日が多かったため、5年ぶりに秋の平均気温は平年並となった。また、沖縄・奄美では、高気圧の勢力が平年より強かったため、先島諸島を中心に秋の平均気温がかなり高く、秋の降水量は少なかった。

2 気温、降水量、日照時間の気候統計値

(1) 平均気温

年平均気温は、全国的に平年並だった。

(2) 降水量

年降水量は、北日本と東日本日本海側、西日本太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美では少なく、西表島（沖縄県）では年降水量の少ない方からの1位の値を更新した。東日本太平洋側と西日本日本海側では平年並だった。

(3) 日照時間

年間日照時間は、北日本太平洋側と東日本でかなり多く、北日本日本海側では多かった。室蘭（北海道）、仙台（宮城県）、熊谷（埼玉県）など6地点では、年間日照時間の多い方からの1位の値を更新した。一方、西日本では少なかった。沖縄・奄美では平年並だった。

地域平均平年差（比）と階級（2014年）

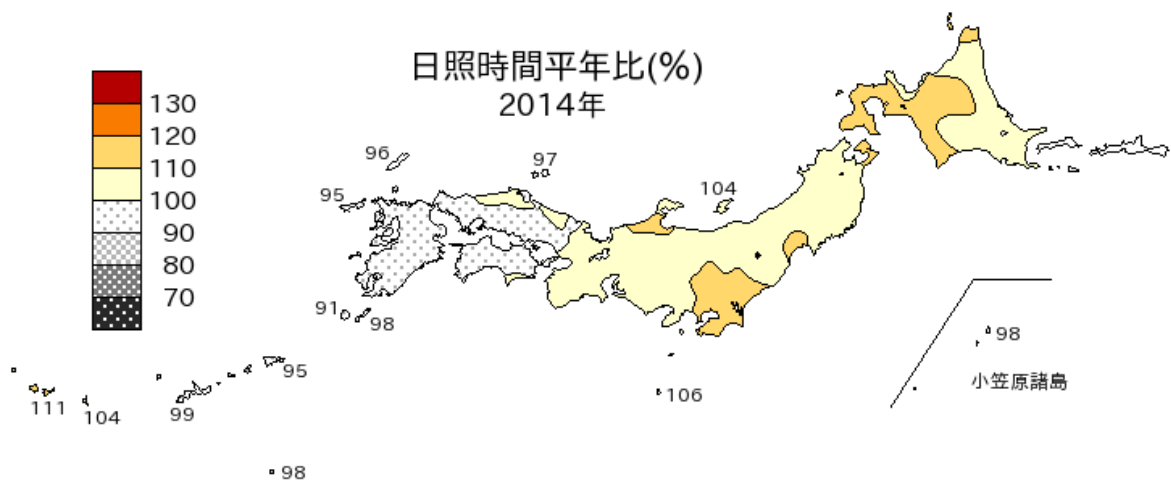
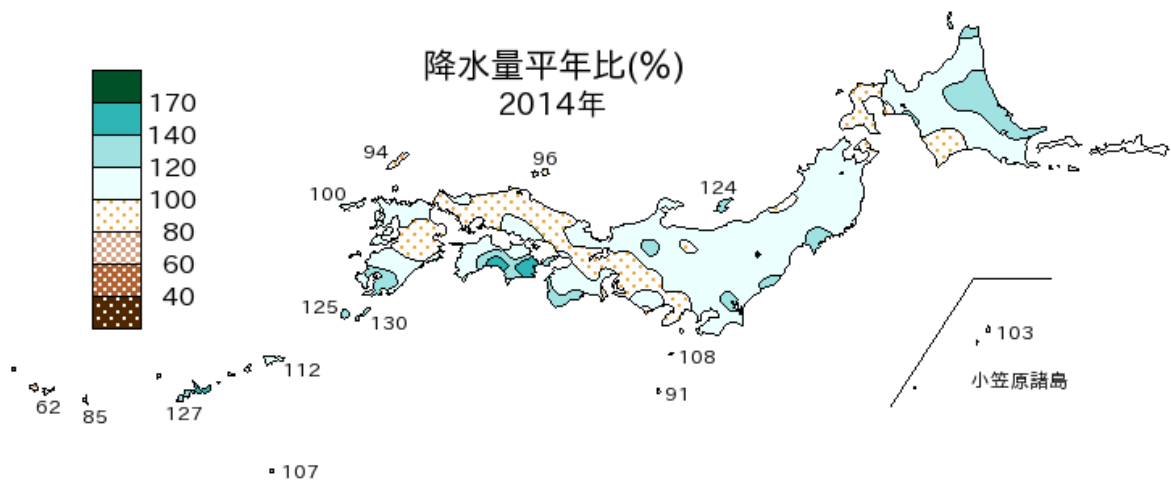
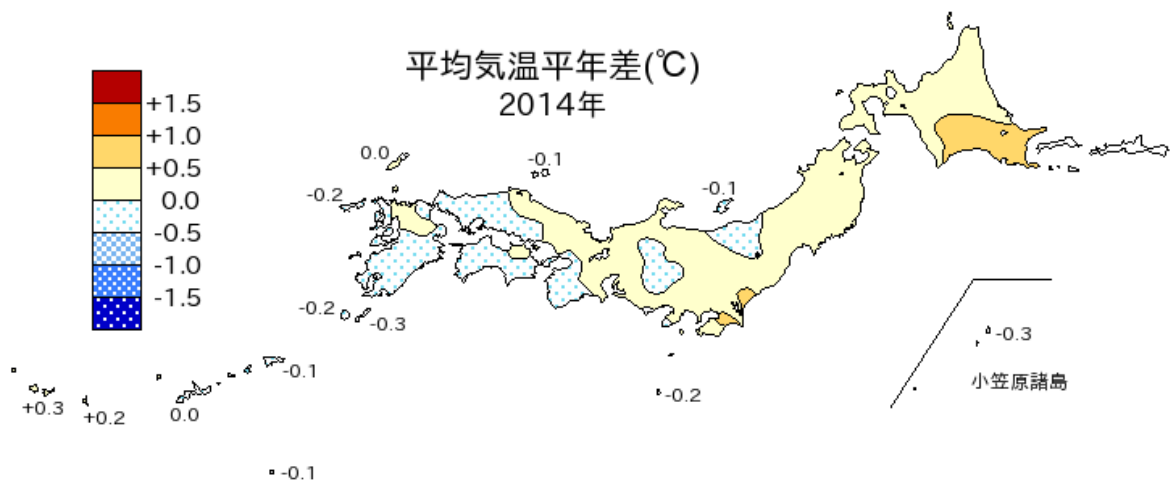
	気温 平年差 ℃(階級)	降水量 平年比 %(階級)	日照時間 平年比 %(階級)		気温 平年差 ℃(階級)	降水量 平年比 %(階級)	日照時間 平年比 %(階級)
北日本	0.3 (○)	日 109 (+) 太 108 (+) 太 111 (+)	日 110 (+)* 日 109 (+) 太 111 (+)*	北海道	0.4 (+)	日 108 (+) 才 108 (+) 太 118 (+)* 太 103 (○)	日 111 (+)* 日 110 (+) 才 106 (+) 太 113 (+)*
東日本	0.1 (○)	日 106 (○) 太 113 (+) 太 104 (○)	日 108 (+)* 日 108 (+)* 太 108 (+)*	東北	0.2 (○)	日 111 (+) 太 109 (+) 太 113 (+)	日 109 (+) 日 107 (+) 太 110 (+)*
西日本	-0.1 (○)	日 108 (○) 太 102 (○) 太 113 (+)	日 97 (-) 日 97 (-) 太 98 (-)	関東甲信	0.2 (○)	107 (+)	110 (+)*
沖縄・奄美	0.1 (○)	92 (-)	102 (○)	北陸	0.0 (○)	113 (+)	108 (+)*
				東海	0.1 (○)	101 (○)	106 (+)
				近畿	0.0 (○)	日 105 (○) 太 102 (○) 太 106 (+)	日 102 (○) 日 103 (○) 太 102 (○)
				中国	-0.1 (○)	陰 97 (○) 陽 97 (○) 陽 98 (○)	陰 98 (○) 陽 100 (○) 陽 96 (-)
				四国	-0.1 (○)	122 (+)	98 (-)
				九州北部	-0.1 (○)	104 (○)	94 (-)
				九州南部 ・奄美	-0.1 (○) 本-0.1 (○) 奄 0.0 (○)	本 118 (+) 本 120 (+)* 奄 110 (+)	本 96 (-) 本 96 (-) 奄 97 (-)
				沖縄	0.2 (+)	85 (-)	104 (+)

階級表示 - :低い(少ない) 0:平年並 +:高い(多い) 地域表示 日:日本海側 陰:山陰 本:本土(九州南部)
*は(かなり低い(少ない) かなり高い(多い)を表す 才:オホーツク海側 陽:山陽 奄:奄美
太:太平洋側

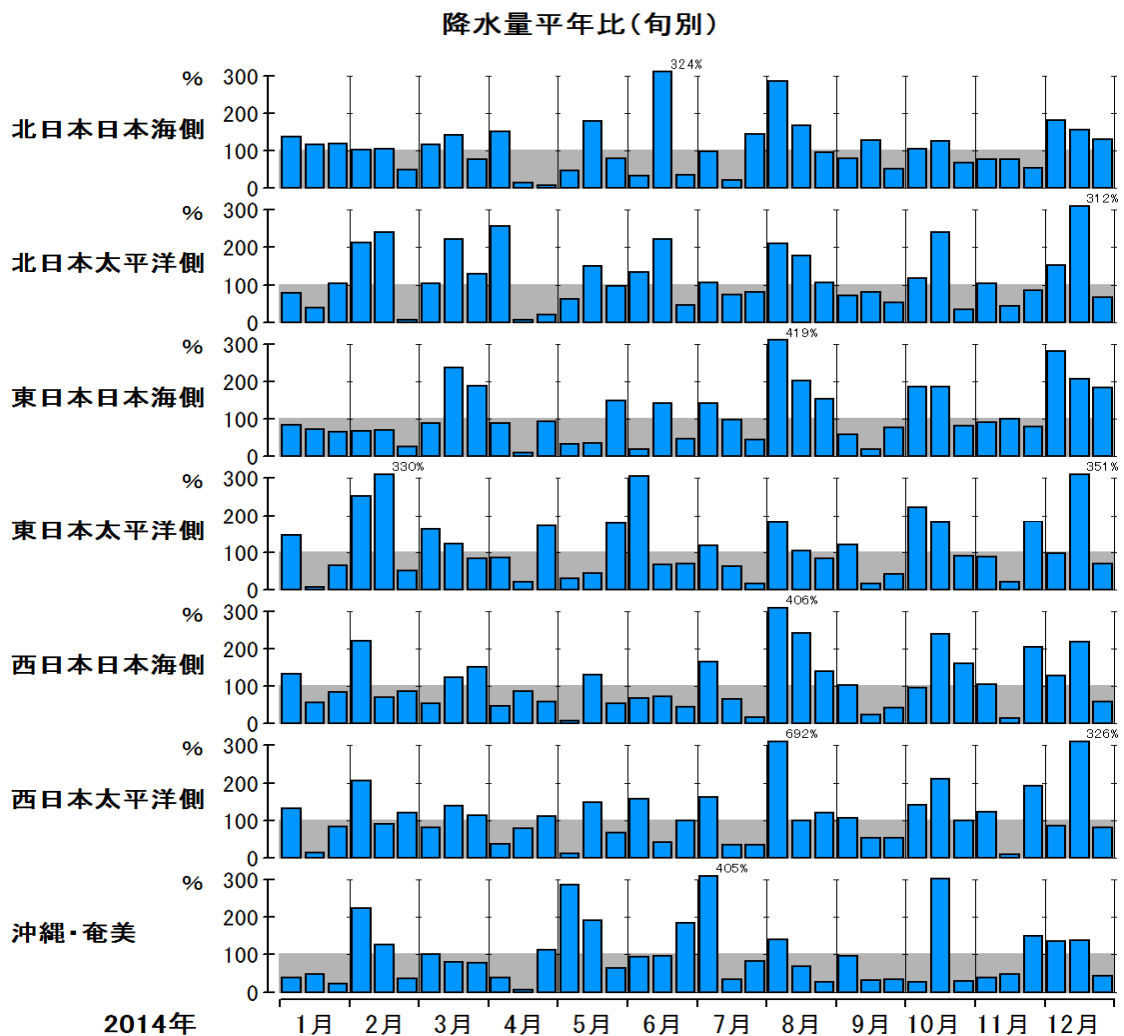
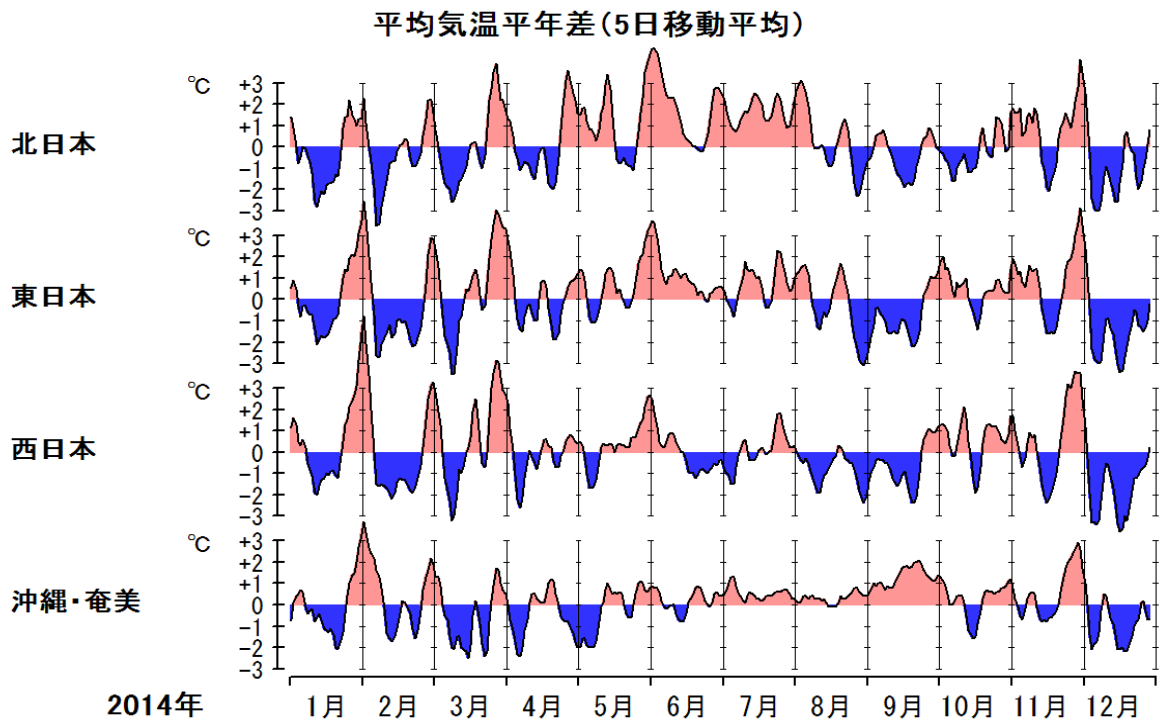
(注)・基礎となるデータは全国の気象台等での観測値で、観測所数は154地点である。このうち、降雪の深さ、最深積雪については、観測を行っている106地点が対象である。

・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1981~2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1981~2010年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

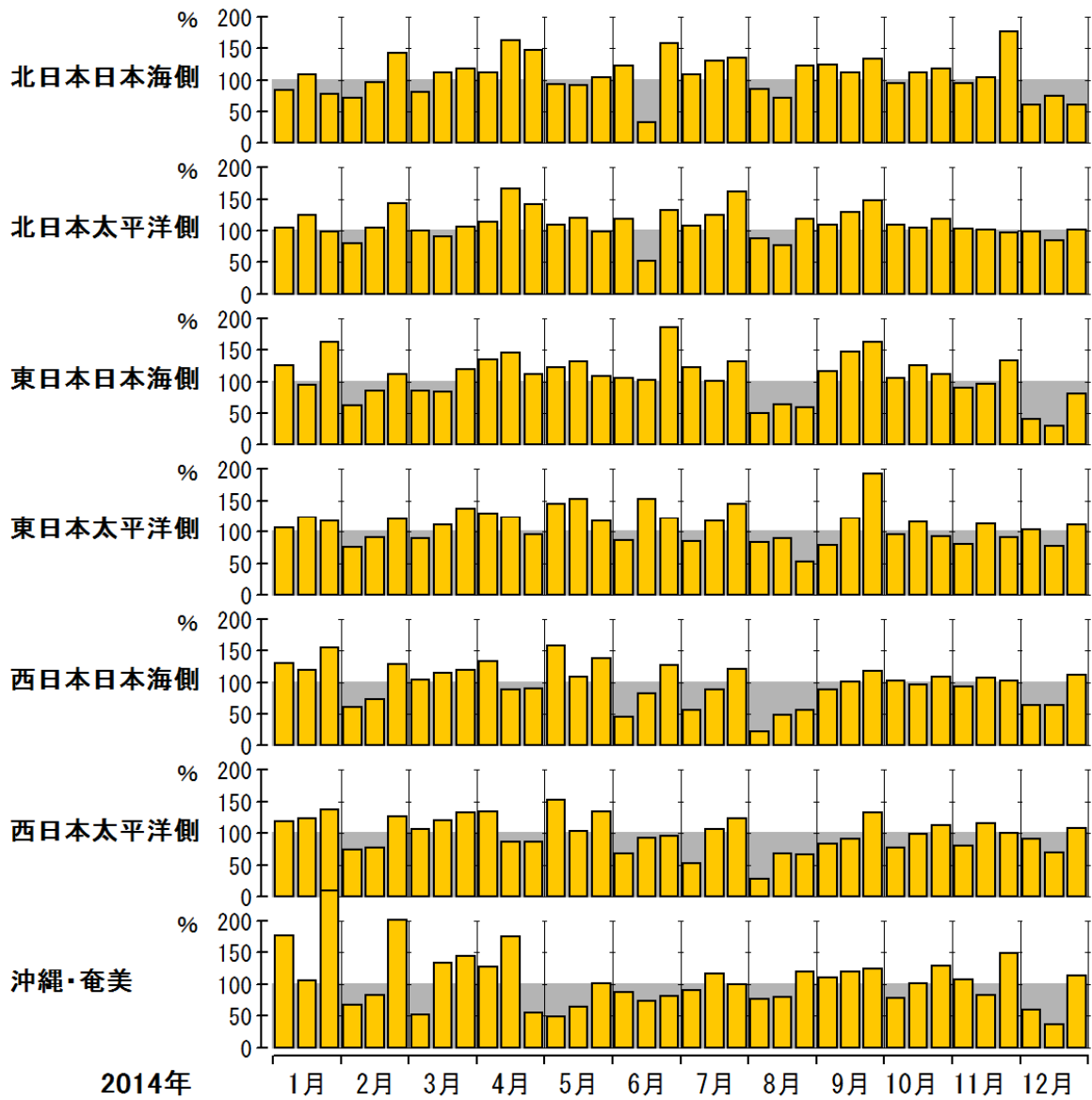
平年差（比）図（2014年）



地域平均平年差（比）の経過（2014年）



日照時間平年比(旬別)



観測史上1位の値(月、3か月、年別値)の更新地点数

- ・全国154地点の気象台等の統計値の中で、観測史上1位となった地点数を記載した。
- ・値は1位を更新した地点数でタイ記録は含めない、タイ記録がある場合には「値タイ」として横に併記した。
- ・更新およびタイ記録の地点数の合計が5以上のとき、主にその記録が分布している地域を記載した。

	平均気温		降水量		日照時間		降雪の深さ	最深積雪
	最高	最低	最大	最小	最大	最小	最大	最大
1月	0	0	0	3	24 東・西日本、 沖縄・奄美	0	0	0
2月	0	0	3	1	0	0	16 東日本	11 東日本
冬	0	0	0	0	1	0	4	
3月	0	0	7 北・東日本	1	1	0	4	1
4月	0	0	0	6 北日本	35 北・東日本	0	0	0、1タイ
5月	3、3タイ 北日本	0	0	0	30 東・西日本	0		
春	0	0	0	1	17、1タイ 北～西日本	0		
6月	7 北日本	0	1	8 東・西日本	0	1		
7月	0	0	0	0	0	0		
8月	0	0	17、1タイ 北～西日本	0	0	29 東・西日本		
夏	2	0	2	0、1タイ	0	4		
9月	4、1タイ 沖縄・奄美	0	0	2	11 北日本	0		
10月	0	0	1	1	0	0		
11月	0	0	0	0	0	0	0	0
秋	3	0	0	2	9 北・東日本	0		
12月	0	0	11 北・東日本	0	0	3	1	1
年 (2014年)	0	0	0	1	6 北・東日本	0		

3 季節別の天候経過

冬（2013年12月～2014年2月）:

東日本と沖縄・奄美は、冬の平均気温が低かった

日本海側は一部地域を除いて、冬の降雪量が少なかった

太平洋側では大雪に2度見舞われ、関東甲信地方を中心に記録的な大雪となった

東日本以西では、1か月程度の周期で気温が変動し、各月とも中旬を中心に寒気に覆われた。

東日本と沖縄・奄美では、冬の平均気温は低く、東日本では3年連続の寒冬となった。西日本では、1月下旬から2月はじめにかなり気温の高い日が続いたことから、冬の平均気温は平年並だった。また、北日本では、12月の平均気温は高くなったものの、1月以降は気温の低い日が多く、冬の平均気温は平年並だった。上空の強い寒気は、北日本方面に一時的に南下した程度だったことから、日本海側の降雪量は北日本の山沿い等を除いて全般に平年を下回った地点が多く、特に北陸地方の平地では平年を大きく下回る地点が多かった。

12月中旬から1月中旬にかけては冬型の気圧配置となり、太平洋側では晴れの日が多かった。日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、北日本日本海側や山陰の山沿いでは平年を大きく上回る積雪となった所があった。1月下旬から2月はじめにかけては冬型の気圧配置が弱まり、移動性高気圧に覆われる日もあって、北日本の一部を除いては全国的に晴れの日が多く、気温がかなり高くなった。2月上旬半ばから中旬にかけては、低気圧が日本の南を周期的に通過したことから、太平洋側でも曇りや雪または雨の日があり、7日から8日にかけてと14日から16日にかけては、広い範囲で大雪や大雨となった。特に14日から16日にかけては、最深積雪が甲府（山梨県）で114cm、秩父（埼玉県）で98cm、前橋（群馬県）で73cmになるなど、関東甲信地方を中心に過去の記録を大幅に上回る記録的な大雪となり、甚大な被害となった。沖縄・奄美では、12月中・下旬に寒気や気圧の谷の影響を受けて曇りや雨の日が続いたが、1月は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。

平均気温は、東日本、沖縄・奄美で低かった。北日本、西日本は平年並だった。降水量は、北日本、東・西日本太平洋側で多かった。一方、東日本日本海側では少なかった。西日本日本海側、沖縄・奄美は平年並だった。日照時間は、東・西日本太平洋側、沖縄・奄美で多かった。彦根（滋賀県）では冬の日照時間の多い方からの1位を更新した。北日本、東・西日本日本海側は平年並だった。

春（3～5月）:

北日本から西日本にかけては、春の日照時間がかなり多かった

春の平均気温は、東・西日本で高く、沖縄・奄美で低かった

北日本から西日本にかけては、低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わったが、高気圧に覆われ晴れる日が多かったことから、北・東・西日本では、春の日照時間がかなり多く、東日本日本海側で平年の118%、東日本太平洋側で平年の122%、西日本日本海側で平年の118%と、統計を開始した1946年以降で最も多くなった。降水量は、北日本日本海側と西日本では少なかったが、低気圧の通過時にまとまった降水があったことから、北日本太平洋側と東日本は平年並だった。特に、3月は、低気圧がたびたび発達したため、所々で大雨や大雪となる日もあり、東日本日本海側の月降水量は、3月としては1946年以降で最も多くなった。気温は、東日本では3月上旬に、西日本では3月上旬、4月上旬、5月上旬に寒気が入り低くなったが、3月下旬と5月下旬は南から暖かい空気が流れ込み、気温が平年を大幅に上回ったことなどから、東・西日本では春の平均気温が高かった。

沖縄・奄美では、春の前半は、低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わったが、高気圧に覆われ晴れる日が多かったため、降水量が少なく、日照時間が長い状態が続いた。春の後半は、低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かったため、降水量が多く、日照時間が少ない状態が続いた。春を通して、冷涼な高気圧や寒気の影響を受ける日が多く、春の平均気温は低かった。

平均気温は、東・西日本では高かった。一方、沖縄・奄美では低かった。北日本は平年並だった。降水量は、北日本日本海側、西日本で少なかった。寿都（北海道）では、春の降水量の少ない方からの1位を更新した。北日本太平洋側、東日本、沖縄・奄美は平年並だった。日照時間は、北・東・西日本でかなり多かった。室蘭（北海道）、宇都宮（栃木県）、舞鶴（京都府）など17地点で春の日照時間の1位を更新した。沖縄・奄美は平年並だった。

夏（6～8月）:

夏の平均気温は、西日本で低かった一方、北日本、東日本、沖縄・奄美で高かった
北日本、西日本太平洋側では、夏の降水量がかなり多かった
西日本では、夏の日照時間がかなり少なかった

夏の降水量は、梅雨前線の影響は弱かったが、主に7月30日からの「平成26年8月豪雨」に伴い、北日本、西日本太平洋側ではかなり多く、東・西日本日本海側で多かった。気圧の谷の影響と太平洋高気圧の西日本付近への張り出しが弱かった影響で、西日本の夏の日照時間はかなり少なく、西日本の夏の平均気温は、2003年以来11年ぶりに低くなった。一方、日本の東海上の高気圧が強かった影響で、高気圧周辺の南からの暖かい空気が流れ込んだ北・東日本の気温は高く、暖かい空気に覆われることが多かった沖縄・奄美の気温も高かった。

梅雨前線は、6月は沖縄・奄美や日本の南海上に停滞したが、7月上旬に本州付近に北上した後、7月下旬に北日本まで北上した。このため、梅雨前線の影響は、沖縄・奄美では受けやすかったが、北日本から西日本にかけては小さかった。6月前半は、北日本から西日本にかけて気圧の谷の影響で、西日本を中心に日照時間が少なく、北日本と東日本太平洋側では、大雨となった所があった。また、台風第8号が7月8日に沖縄本島と宮古島の間を通過し、10日に鹿児島県に上陸して本州南岸を東進した。この影響で、沖縄本島地方では記録的な大雨となったほか、北日本から西日本にかけても局地的に大雨となり、各地で土砂災害や浸水害等が発生した。7月中旬は東・西日本太平洋側や沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなったが、湿った気流や上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となって、北日本から西日本の所々で大雨となった。7月下旬は、東・西日本では高気圧に覆われて晴れる日が多く猛暑日となった所が多かったが、23日頃に台風第10号の影響により八重山諸島で大雨となり、27日頃には低気圧の影響で北海道地方を中心に大雨となった。

7月30日から8月下旬にかけては、台風第12号及び台風第11号が相次いで接近するとともに、前線が日本付近に停滞し、日本付近へ暖かく非常に湿った空気が継続して流れ込んだ。このため、各地で大雨となった（平成26年8月豪雨）。特に、四国地方の太平洋側では、台風第12号の影響で、8月1日から5日までの総降水量が多い所で1000mmを超える大雨となった。また、10日に四国地方に上陸した台風第11号の影響で、沖縄・奄美と西日本で暴風雨となり、四国地方や東海地方を中心に広い範囲で大雨となった。その後も前線の影響で16日から17日にかけては、近畿地方、北陸地方、東海地方で局地的な大雨が発生し、さらに、19日夜から20日明け方にかけては、広島県広島市で集中豪雨となり、大規模な土砂災害が発生した。

平均気温は、北・東日本、沖縄・奄美で高かった。与那国島、石垣島（以上、沖縄県）では、夏の平均気温の高い方からの1位を更新した。一方、西日本では低かった。降水量は、北日本、

西日本太平洋側ではかなり多く、東・西日本日本海側が多かった。雄武（北海道）徳島では、夏の降水量の多い方からの1位を更新した。東日本太平洋側と沖縄・奄美では平年並だった。日照時間は、西日本ではかなり少なく、東日本日本海側と沖縄・奄美で少なかった。佐世保、雲仙岳（以上、長崎県）阿蘇山（熊本県）など4地点では、夏の日照時間の少ない方からの1位を更新した。一方、北日本日本海側で多く、北・東日本太平洋側では平年並だった。

秋（9～11月）：

北日本と東日本日本海側では、秋の日照時間がかかなり多かった

沖縄・奄美では、秋の平均気温がかかなり高く、秋の降水量が少なかった

北日本と東日本では、秋の平均気温が5年ぶりに平年並だった

9月から10月にかけて日本付近の偏西風は平年に比べ南寄りを流れ、9月を中心に大陸からの冷たい空気を伴った移動性高気圧に覆われる日が多かった。このため、北日本と東日本日本海側で秋の日照時間がかかなり多く、東日本日本海側では日照時間平年比が121%、東北地方では122%となり、1946年の統計開始以来、秋としては最も多い記録を更新した。また、北日本と東日本では、近年、秋の高温が続いていたが、2009年以来5年ぶりに平年並の気温となった。一方、沖縄・奄美では、9月を中心に高気圧の勢力が強くと、9月の月平均気温は平年差+1.3で、1946年の統計開始以来9月としては最も高い記録となった。10月は平年並の気温となったが、11月も気温が高く、秋の気温はかなり高くなった。

降水量は、9月は秋雨前線の活動が弱くと、全国的に降水量が少なかった。10月は、台風第18号と第19号が相次いで上陸したため、北海道地方と沖縄地方を除き、ほぼ全国的に降水量が多く、東日本ではかなり多くなった。11月に入ってから、寒気の影響が弱くと、北日本日本海側では降水量がかかなり少なかった。このため、秋の降水量は東・西日本では平年並となったが、北日本と沖縄・奄美では少なくなった。特に先島諸島では7月以降少雨が続くと、八重山地方では夜間断水となるなど、少雨の影響が深刻化した。

平均気温は、沖縄・奄美でかなり高かった。与那国島、西表島、石垣島（以上、沖縄県）では、秋の平均気温の、高い方からの1位の値を更新した。北・東・西日本は平年並だった。降水量は、北日本と沖縄・奄美で少なかった。雄武（北海道）西表島（沖縄県）では、秋の降水量の、少ない方からの1位の値を更新した。東・西日本は平年並だった。日照時間は、北日本と東日本日本海側でかなり多く、東日本太平洋側と沖縄・奄美が多かった。新庄（山形県）仙台（宮城県）伏木（富山県）など9地点では、秋の日照時間の、多い方からの1位の値を更新した。西日本では平年並だった。

4 全国気候表 2014年

地点名	平均気温(平年差) 階級		降水量(平年比) 階級		降水日数 1mm	日照時間(平年比) 階級	
	()	()	(mm)	(%)		(h)	(%)
札幌	9.3	(+0.4)	1203.5	(109)	+	144	1912.7 (110) +
稚内	7.1	(+0.3)	1291.0	(121)	+*	141	1640.6 (111) +
北見枝幸	6.3	(+0.3)	1165.5	(101)		134	1632.6 (105) +
旭川	7.2	(+0.3)	1284.5	(123)	+*	145	1786.1 (112) +
留萌	7.9	(+0.2)	1193.0	(106)	+	148	1698.7 (110) +
羽幌	7.9	(+0.2)	1430.5	(112)	+	164	1718.9 (109) +
岩見沢	7.9	(+0.3)	1227.5	(106)	+	142	1927.5 (113) +*
倶知安	6.9	(-0.1)	1638.0	(111)	+	175	1651.1 (113) +*
小樽	8.8	(+0.2)	1426.0	(116)	+	165	1715.5 (105) +
寿都	9.0	(+0.4)	1057.5	(90)	-	150	1561.3 (110) +
網走	7.0	(+0.5)	956.5	(121)	+	100	2032.2 (109) +*
紋別	6.8	(+0.4)	1003.5	(124)	+*	110	1845.2 (107) +
雄武	6.1	(+0.4)	1099.0	(127)	+*	116	1745.1 (104) +
釧路	7.0	(+0.8)	1219.5	(117)	+	86	2153.0 (109) +*
根室	6.8	(+0.5)	1194.5	(117)	+	95	2024.5 (110) +*
帯広	7.6	(+0.8)	885.0	(100)		82	2162.4 (106) +*
広尾	7.4	(+0.6)	1530.0	(90)	-	109	2023.9 (112) +*
室蘭	9.0	(+0.4)	1028.0	(87)	-	125	2015.7 (117) +*
苫小牧	7.9	(+0.3)	1458.0	(122)	+*	102	2023.6 (119) +*
浦河	8.1	(+0.2)	1050.5	(98)		115	2120.5 (116) +*
函館	9.4	(+0.3)	1078.5	(94)	-	137	2006.1 (115) +*
江差	10.2	(+0.1)	992.0	(83)	-	139	1596.7 (110) +
青森	10.7	(+0.3)	1483.5	(114)	+	158	1735.0 (108) +
深浦	10.8	(+0.1)	1624.5	(111)	+	158	1514.2 (104) +
むつ	9.7	(+0.2)	1310.0	(98)		147	1814.5 (113) +*
八戸	10.4	(+0.2)	1128.5	(110)	+	92	2011.1 (108) +*
秋田	12.0	(+0.3)	1737.5	(103)		177	1647.3 (108) +
盛岡	10.6	(+0.4)	1280.0	(101)		133	1852.3 (110) +*
大船渡	11.6	(+0.3)	1718.5	()		111]	1909.2 (110) +*
宮古	10.8	(+0.2)	1538.5	(116)	+	95	2049.8 (109) +
仙台	12.8	(+0.4)	1416.5	(113)	+	107	2093.4 (117) +*
石巻	11.8	(+0.2)	1330.5	(125)	+*	100	2077.0 (107) +
山形	11.8	(+0.1)	1336.5	(115)	+	146	1736.9 (108) +
新庄	10.8	(+0.1)	2132.5	(115)	+	202	1399.9 (106) +
酒田	12.8	(+0.1)	1770.5	(94)		186	1656.7 (107) +
福島	13.3	(+0.3)	1365.5	(117)	+	115	1889.2 (109) +*
若松	11.6	(-0.1)	1340.5	(110)	+	150	1753.5 (109) +*
白河	11.8	(+0.3)	1595.0	(113)	+	104	1946.3 (109) +*
小名浜	13.7	(+0.3)	1733.5	(123)	+*	97	2244.9 (110) +*
水戸	14.2	(+0.6)	1471.0	(109)	+	99	2249.6 (117) +*
館野(つくば)	14.2	(+0.4)	1642.0	(128)	+*	101	2211.2 (116) +*

地点名	平均気温(平年差) 階級		降水量(平年比)階級		降水日数 1mm	日照時間(平年比) 階級	
	()	()	(mm)	(%)		(h)	(%)
宇都宮	14.2	(+0.4)	1763.5	(118)	+	104	2180.3 (114) +*
日光	6.9	(0.0)	2547.5	(117)	+	121	1918.3 (109) +
前橋	14.9	(+0.3)	1395.5	(112)	+	90	2344.1 (111) +*
熊谷	15.3	(+0.3)	1387.5	(108)	+	90	2366.3 (116) +*
秩父	13.2	(+0.1)	1578.5	(118)	+	94	2137.7 (112) +*
東京	16.6	(+0.3)	1808.0	(118)	+	106	2104.0 (112) +*
大島	16.2	(+0.1)	2615.0	(92)		114	1984.4 (110) +*
三宅島	16.8]	()	3188.0	(108)	+	138	1800.8] ()
	(統計月数:11)					(統計月数:11)	
八丈島	17.6	(-0.2)	2920.5	(91)	-	164	1481.8 (106) +
父島	22.9	(-0.3)	1336.0	(103)		105	2000.2 (98) -
千葉	16.3	(+0.6)	1495.5	(108)	+	101	2113.4 (111) +*
銚子	15.9	(+0.5)	1738.5	(105)		113	2263.6 (115) +*
館山	16.1	(+0.2)	1814.5	(101)		105	2177.4 (112) +*
勝浦	16.0	(+0.3)	2235.0	(113)	+	108	2099.2] ()
						(統計月数:11)	
横浜	16.2	(+0.4)	1860.0	(110)	+	103	2220.7 (113) +*
長野	11.9	(0.0)	902.0	(97)		110	2028.1 (105) +
松本	11.9	(+0.1)	1040.5	(101)		94	2187.6 (104) +
諏訪	11.0	(-0.1)	1369.5	(107)		107	2210.4 (104) +
軽井沢	8.3	(+0.1)	1343.5	(108)		110	2094.2 (108) +
飯田	12.6	(-0.2)	1598.0	(99)	-	119	2125.3 (105) +
甲府	14.7	(0.0)	1190.0	(105)		82	2335.2 (107) +*
河口湖	10.7	(+0.1)	1523.0	(97)		102	2078.5 (106) +
静岡	16.6	(+0.1)	2374.0	(102)		106	2214.8 (106) +
浜松	16.5	(+0.2)	1830.5	(101)		100	2324.3 (105) +
御前崎	16.2	(-0.2)	2037.5	(99)		102	2324.9 (104) +
三島	16.1	(+0.2)	1664.5	(89)	-	105	2023.9 (104) +
石廊崎	16.4	(-0.2)	1613.5	(91)	-	105	2280.4 (108) +*
網代	16.1	(+0.1)	1833.0	(93)	-	103	1945.8 (109) +
名古屋	16.1	(+0.3)	1505.5	(98)		107	2255.3 (108) +*
伊良湖	16.1	(+0.1)	1511.5	(94)		97	2278.4 (103) +
岐阜	16.1	(+0.3)	1719.0	(94)		109	2208.7 (106) +
高山	10.9	(-0.1)	2096.5	(123)	+	155	1713.1 (106) +
津	16.1	(+0.2)	1589.0	(100)		100	2142.0 (104) +
上野	14.5	(+0.3)	1345.0	(99)		104	1916.7 (109) +*
尾鷲	16.0	(-0.1)	4641.0	(121)	+	117	2036.0 (105) +
四日市	15.0	(+0.2)	1792.5	(104)		102	2016.6 (103)
新湊	13.7	(-0.2)	1984.0	(109)	+	170	1764.2 (107) +
相川	13.8	(-0.1)	1867.5	(124)	+	148	1692.9 (104) +
高田	13.6	(0.0)	3182.5	(116)	+	197	1683.4 (106)

地点名	平均気温(平年差) 階級		降水量(平年比)階級		降水日数 1mm	日照時間(平年比) 階級	
	()	()	(mm)	(%)		(h)	(%)
富山	14.3	(+0.2)	2535.0	(110)	+	168	1768.5 (110) +*
伏木	14.0	(+0.1)	2500.5	(112)	+	162	1788.0 (111) +*
金沢	14.8	(+0.2)	2634.5	(110)	+	161	1860.6 (111) +*
輪島	13.5	(0.0)	2502.5	(119)	+*	159	1634.9 (104) +
福井	14.6	(+0.1)	2463.5	(110)	+	169	1787.7 (110) +*
敦賀	15.4	(+0.1)	2363.0	(111)	+	164	1682.9 (108) +
彦根	14.9	(+0.2)	1449.5	(92)	-	127	1970.6 (108) +*
京都	16.1	(+0.2)	1377.0	(92)		104	1824.6 (103) +
舞鶴	14.5	(0.0)	2075.5	(114)	+	156	1563.9 (102)
大阪	16.7	(-0.2)	1278.5	(100)		101	2161.3 (108) +*
神戸	16.7	(0.0)	1222.0	(100)		90	2096.0 (105) +
豊岡	14.4	(+0.1)	2002.0	(99)		165	1481.0 (99)
姫路	15.3	(+0.1)	1156.5	(96)		101	1944.3 (96) -
洲本	15.3	(-0.2)	1854.0	(132)	+*	99	2021.0 (98) -
奈良	14.9	(0.0)	1320.5	(100)		105	1854.0 (102)
和歌山	16.7	(0.0)	1409.5	(107)		102	2145.2 (103) +
潮岬	17.1	(-0.1)	3045.0	(121)	+	119	2267.8 (103) +
岡山	16.1	(-0.1)	1142.5	(103)		96	1972.5 (97) -
津山	13.7	(0.0)	1381.0	(98)		110	1710.7 (97) -
広島	16.2	(-0.1)	1573.0	(102)		108	1979.7 (97) -
呉	16.1	(-0.1)	1206.0	(87)	-	95	1954.1 (95) -
福山	15.3	(-0.1)	1123.5	(101)		101	2018.6 (96) -
松江	14.9	(0.0)	1818.5	(102)		150	1721.0 (101)
西郷	14.2	(-0.1)	1715.0	(96)		139	1695.8 (97)
浜田	15.3	(-0.2)	1626.5	(98)		137	1769.7 (101)
鳥取	14.9	(0.0)	1890.0	(99)		158	1706.7 (103)
米子	15.1	(+0.1)	1668.0	(94)		146	1755.0 (101)
境	15.1	(0.0)	1725.0	(91)	-	143	1645.3 (96) -
徳島	16.4	(-0.2)	2534.0	(174)	+*	106	2098.0 (100)
高松	16.4	(+0.1)	1228.5	(114)	+	106	1975.9 (96) -
多度津	16.2	(0.0)	1066.0	(100)		97	2060.8 (98) -
松山	16.4	(-0.1)	1417.5	(108)		107	1901.2 (94) -
宇和島	16.7	(-0.1)	1903.5	(115)	+	131	1895.1 (98) -
高知	17.0	(0.0)	3658.5	(144)	+*	122	2095.0 (97) -
宿毛	16.9	(0.0)	2385.5	(121)	+	110	2001.5 (95) -
清水	18.1	(-0.1)	2695.5	(109)		130	2149.3 (97) -
室戸岬	16.5	(-0.2)	2709.5	(116)	+	116	2237.9 (103)

地点名	平均気温(平年差) 階級		降水量(平年比)階級		降水日数 1mm	日照時間(平年比) 階級		
	()	()	(mm)	(%)		(h)	(%)	
山口	15.3	(-0.1)	1715.5	(91)	-	126	1771.0 (93)	-
下関	16.6	(-0.1)	1678.0	(100)		120	1775.9 (94)	-
萩	15.5	(-0.1)	1725.0	(104)		128	1666.7 (95)	-
福岡	17.1	(+0.1)	1765.5	(110)	+	124	1809.8 (97)	-
飯塚	15.6	(-0.1)	1933.0	(109)	+	128	1753.1 (96)	-
大分	16.3	(-0.1)	1613.0	(98)		108	1840.7 (92)	-*
日田	15.6	(+0.2)	1607.5	(89)	-	108	1725.7 (96)	-
長崎	17.0	(-0.2)	2133.5	(115)	+	118	1761.0 (94)	-
厳原	15.8	(0.0)	2107.5	(94)		96	1786.6 (96)	-
平戸	16.1	(0.0)	2345.0	(111)	+	122	1721.1 (96)	-
佐世保	16.9	(-0.1)	2222.5	(114)	+	120	1865.0 (98)	-
雲仙岳	12.7	(-0.1)	3031.5	(105)		145	1285.9 (89)	-
福江	16.6	(-0.2)	2334.0	(100)		124	1673.4 (95)	-
佐賀	16.7	(+0.2)	2252.5	(120)	+	115	1859.7 (94)	-
熊本	16.8	(-0.1)	1694.0	(85)	-	119	1883.7 (94)	-
阿蘇山	9.7	(-0.2)	2704.0]	()		157	1412.8 (91)	-
			(統計月数:11)					
人吉	15.5	(0.0)	2448.5	(102)		130	1667.1 (91)	-
牛深	17.8	(-0.2)	2423.0	(122)	+*	132	1797.0 (92)	-
宮崎	17.4	(0.0)	2731.5	(109)	+	120	2072.0 (98)	-
延岡	16.6	(0.0)	2386.0]	()		104]	2064.4 (97)	
			(統計月数:11) (統計月数:11)					
都城	16.5	(0.0)	3196.0	(129)	+*	132	1895.3 (98)	
油津	18.1	(-0.1)	3052.0	(117)	+	127	1850.8 (94)	-
鹿児島	18.5	(-0.1)	2834.0	(125)	+	133	1872.3 (97)	-
阿久根	17.1	(-0.1)	2280.5	(111)	+	130	1860.6 (95)	-
枕崎	17.9	(-0.2)	2419.5	(111)	+	139	1832.0 (95)	-
屋久島	19.2	(-0.2)	5593.0	(125)	+*	170	1399.4 (91)	-*
種子島	19.3	(-0.3)	3037.0	(130)	+*	148	1771.3 (98)	
名瀬	21.5	(-0.1)	3182.5	(112)	+	156	1292.9 (95)	-
沖永良部	22.4	(0.0)	1987.5	(108)	+	117	1844.6 (98)	-
那覇	23.1	(0.0)	2584.5	(127)	+	137	1760.2 (99)	
名護	22.5	(-0.1)	2848.0	(141)	+*	147	1738.9 (99)	
久米島	23.1	(+0.2)	2077.0	(98)		131	1720.8 (98)	-
宮古島	23.8	(+0.2)	1722.0	(85)	-	138	1829.5 (104)	+
石垣島	24.6	(+0.3)	1300.5	(62)	-*	105	2051.0 (111)	+*
西表島	23.9	(+0.2)	979.0	(42)	-*	105	1833.7 (106)	+
与那国島	24.0	(+0.2)	1301.5	(55)	-*	112	1722.3 (109)	+*
南大東島	23.2	(-0.1)	1705.0	(107)		123	2090.9 (98)	

(注) 1. 平年値は 1981～2010 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+ : 高い(多い) : 平年並 - : 低い(少ない)

各階級の区分値は、1981～2010 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が 10 個ずつになる)ように決めた。

また、値が 1981～2010 年の観測値の上位または下位 10%に相当する場合には階級の「+ -」

に * を付加した。この場合には

かなり高い(多い)

かなり低い(少ない)

と表現できる。

3. 値の横に] がある場合には、年別値を求める際に使用したデータ(月別値)に欠測等が含まれていることを示す。]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計月数を参考にして使用されたい。

なお、月別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

東京は、12月2日に大手町の観測値から北の丸公園における観測値に切り替わったが、2014年の平均気温、降水量、降水日数は、両観測点の観測値をそのまま統計処理している。また平均気温の平年差については、11月まで観測していた大手町の平年値と比較している。

5 順位更新表 2014年

順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

年平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温	平年差	これまでの最高 (西暦年)	開始年	平年値
3	帯広 石垣島	7.6 = 24.6 =	+0.8 +0.3	8.0 (2010) 25.4 (1998)	1892 1896	6.8 24.3

年平均気温低い方からの順位更新

3位以内はなし

年降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
3	屋久島	5593.0	125	6294.5 (1999)	1937	4477.2

年降水量少ない方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最小 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	西表島	979.0	42	1328.5 (2003)	1955	2304.9
2	与那国島	1301.5	55	1273.4 (1963)	1956	2353.6

年間日照時間多い方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h (西暦年)	開始年	平年値 h
1	室蘭	2015.7	117	1913.5 (1952)	1923	1725.2
	浦河	2120.5	116	2110.8 (1970)	1927	1834.2
	仙台	2093.4	117	2093.3 (1978)	1927	1796.1
	熊谷	2366.3	116	2336.2 (2013)	1899	2042.1
	銚子	2263.6	115	2243.4 (2013)	1899	1959.9
	館山	2177.4	112	2174.0 (2013)	1968	1936.0

2	函館	2006.1	115	2178.9 (1900)	1890	1748.0
	宇都宮	2180.3	114	2301.9 (1973)	1897	1911.3
	秩父	2137.7	112	2185.1 (2013)	1926	1900.2
	西表島	1833.7	106	1864.5 (2009)	1959	1736.0
3	釧路	2153.0	109	2164.3 (1924)	1910	1969.5
	苫小牧	2023.6	119	2046.2 (1970)	1943	1703.1
	水戸	2249.6	117	2262.6 (1943)	1899	1921.7
	千葉	2113.4	111	2183.9 (2004)	1966	1903.7

年間日照時間少ない方からの順位更新
3位以内はなし

(注) 値の横に] がある場合には、年別値を求める際に使用したデータ(月別値)に欠測等、統計に用いなかった値が含まれている(資料不足値)。順位は更新順位以上になることは確実であるが、統計値の使用に際しては気候表に記載した統計月数を参照されたい。平年値とは1981~2010年の30年間の値を平均したものである。順位の詳細については、1位から3位までの値の更新に該当するものを掲載した。